

目次

第 1 章	研究の軌跡	2
1.1	データ融合	2
	参考文献	3
第 2 章	参考文献	4
	参考文献	5

感度分析，影響関数などの手法を用いて，頑健な数理モデルを作ろうとする試みは，セミパラメトリックモデルや因果推論など，統計数理を横断して考えられている．モデルの頑健性は物理学では採用され得ない視座であることから，新しい数理科学の最初の挑戦と言えるかもしれない．

数理モデルは Frechet 多様体の概念に収まる．古典力学系の相空間は Euclid 多様体になり，パラメータが無限次元になっても Frechet 多様体になる．その微分理論は，Banach 空間の間の作用素の微分の理論で事足りるはずである．

第 1 章

研究の軌跡

1.1 データ融合

参考文献

- [1] Dynamic confounding and Long term treatment effect estimation by data combination: point and partial identification

第 2 章

参考文献

参考文献